

地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選 その21

文：小瀧 達男さん

会津きっての「山の神様」物語

野沢の大久保に鎮座する大山祇神社は、県内外から崇敬を集め、特に6月の例大祭には多くの参拝者が訪れます。祭神は大山祇命とその娘でもある岩長姫命、木花咲耶姫命の親娘三柱をお祀りし、それぞれ山岳と水源、健康と長寿、良縁と安産の神として広く信仰を集めています。

由来によれば、宝亀9年(778年)に、真海法師という老僧が来訪したといわれます。この法師の夢枕に山の神様が現れ「吾こそは三島大明神(祭神：大山祇命)なり、この山に霊地あり、吾を山神として勧請すれば、火災、病苦諸厄を除き国中を安穩に擁護する。さらに「詣る者が、3年続けて真に念じれば一生に一度、一代限りの願い事を叶えよう」とお告げになられたと伝えられています。法師は目覚めると身を清め、山に登り2夜3日の祈祷を行い、祠を築かんとしたところ、忽然と幣束が現れたといわれます。このことを村人に語ったところ皆感激し、翌年に石籠の建立をはかり、9月9日に竣工成就し遷宮式を行ったと伝えられています。

この由来により、「3年続けてお詣りすれば、なじよな(どんな)願いもききなさる山の神様」として信仰を集めています。山全体が神域とされ、遥拝殿(下宮)が建つ大久保集落から1時間ほど中野川沿いのアップダウンする坂道や、幽玄な空気の漂う杉並木と202段の石段を登った所に御本社が建っています。さらにそこから険しい山道を40分ほど登った岩場に奥の院があります(奥の院に行くには案内人が必要です)。

参考文献 西会津町史第7巻 宗教文化資料 大山祇神社起源



↑茅葺き時代の御本社



↑現在の奥の院



今月の表紙

今月の表紙は、民芸品工房「野沢民芸品製作企業組合」が製作している千支張り子です。一番手前の張り子は「首振り黄金亥」。職人の皆さんが受け継いだ製法で心を込め、ひとつひとつ手作業で作っています。

編集後記

あけましておめでとうございます。新年が皆さんにとって良い年になりますよう、心よりお祈りいたします。

さて、とうとう雪が積もり始め、本格的に寒くなってきました。皆さま、いかがお過ごしでしょうか。寒さに弱いわが家では、コタツとストーブを10月の初めにすでに出動させてしまっているのです、これ以上寒くなってしまうと、もうどうしようもありません。今年もあれやこれやと防寒対策を考え中です。暖冬という噂はどこへやら…。

モモヒキが手放せない 長谷川祐一